

# 景況調査DI値に関する分析報告書(全産業)

## 1. 調査対象・目的

本報告書は、令和6年度における全産業の景況調査DI(Diffusion Index)値の推移およびその要因を分析し、経営環境の変化と今後の対応策を明らかにすることを目的とする。R6.4～9月期とR6.10～R7.3月期に焦点をあて、変動要因の解明を図った。

## 2. 分析対象期間と指標一覧

### 【分析対象】

- ・ R6.4～9(令和6年4月～9月)
- ・ R6.10～R7.3(令和6年10月～令和7年3月)

### 【調査指標】(前年同期比または今期の動向)

- 売上動向
- 販売価格
- 仕入価格
- 客数
- 客単価
- 利益動向
- 雇用状況
- 景況観
- 来期の見通し

## 3. DI値の比較分析

指標	R6.4～9月	R6.10～R7.3	増減 (改善+／悪化-)
売上動向	▲22.0	▲24.0	▼2.0(悪化)
販売価格	94.0	94.0	→(横ばい)
仕入価格	94.0	94.0	→(横ばい)
客数	▲14.0	▲16.0	▼2.0(悪化)
客単価	▲40.0	▲40.0	→(横ばい)
利益動向	▲40.0	▲40.0	→(横ばい)
雇用状況	▲36.0	▲38.0	▼2.0(悪化)
景況観	▲72.0	▲76.0	▼4.0(悪化)
来期見通し	▲60.0	▲62.0	▼2.0(悪化)

## 4. 考察と解釈

### ① 景気後退感の継続

・売上、客数、雇用状況、景況観、見通しのすべてで悪化が見られ、景気後退感が広がっている。

### ② 価格水準の安定

・販売・仕入価格ともに94.0で横ばい。価格転嫁は維持されている。

### ③ 利益横ばいの背景

・売上減や雇用悪化にもかかわらず、利益は横ばい。コスト削減や価格維持の努力が働いている可能性。

### ④ 不安感の高まり

・景況観および来期の見通しの悪化が続いており、先行きに対する不安が根強い。

## 5. 今後の示唆と対応方針

・売上回復策：販売促進や顧客接点の強化による需要の掘り起こしが必要。

・価格維持戦略：価格水準の維持を図りつつ、差別化による付加価値提案を推進。

・利益確保：コスト管理の継続と業務効率化により利益水準を維持・改善。

・雇用安定：雇用環境の不確定性を乗り越えるため、安定的な人材確保策が求められる。

・情報提供と安心感：将来不安の払拭に向けた経営支援・情報発信が有効。

## 6. 結論

最新のDI値では、価格面の安定が維持されている一方で、売上や雇用、景況観などの実体経済指標は悪化しており、景気の先行きに対する企業の不安感が一段と強まっている。今後は需要喚起と経営安定化の両輪での取り組みが求められる。